



「スマートタウンで“弱点”転変！ かみしほろ幸せ循環」プロジェクト

かみしほろの未来を創る

SDGs
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOAL

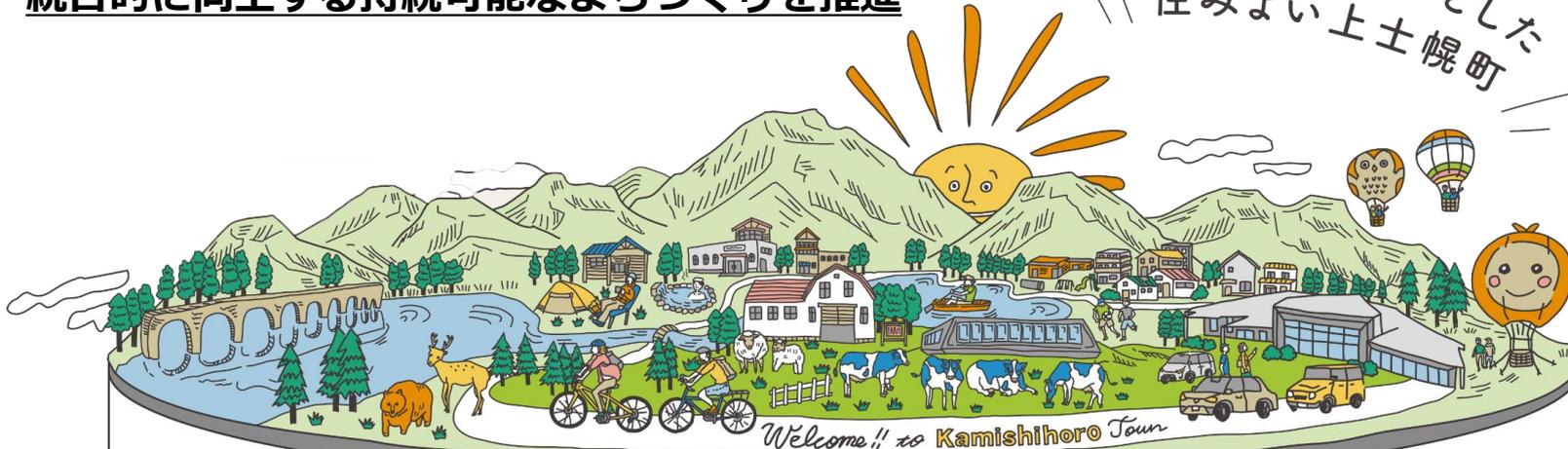




持続可能なまちづくりに向けた取組

5つの柱を中心に、社会・経済・環境が統合的に向上する持続可能なまちづくりを推進

誰もがいきいきとした
住みよい上士幌町



01

第1の柱

だれもが生涯活躍できる
まちづくり



人とまちが活きる仕組みづくり

地域包括ケアの充実

だれもが行き着け、参加できるまち

02

第2の柱

環境と調和した
持続可能な農業と
エネルギーの地産地消



バイオガスプラントを
核とした資源循環型農業

バイオガス発電による
エネルギーの地産地消

03

第3の柱

地域が稼ぐ力の
発揮・地域経営



観光地域商社karch

道の駅・ナイトテラスの運営

新しいビジネス・事業の創出

04

第4の柱

人の都市・地方循環による
地域活性



シェアオフィスの活用

移住・定住・交流の推進

滞在型体験プログラム
「MY MICHI Kamishihoro」

05

第5の柱

次世代高度技術の実装による
スマートタウンの実現



光ファイバー全世帯敷設

スマート農業

MaaS・ドローン

上士幌町の基本情報

人口 4,964人
(令和2年12月)

世帯数 2,597世帯
(令和2年12月)

面積 696km²
(東京23区よりやや広い)

人口密度 約7人/km²

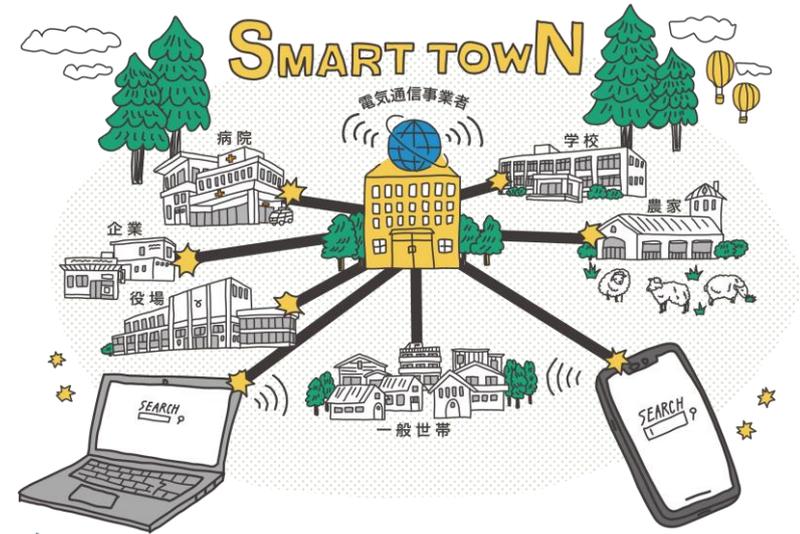
社会増減率 -0.06%
(平成31年～令和元年)

高齢化率 34.29%
(令和2年1月)

- 人口減少の歯止め
- 若年層移住者の増加
- 高齢化率上昇をストップ
- 町民所得の増加
- 税収の増加
- 食料自給率 約3500%
- バイオガス発電による
エネルギー自給率 約100%



- 次世代高度技術を活用し、スマートタウンの構築を進め、住民生活の利便性を向上することで、だれもが生涯活躍のまちづくりを後押し。
- 再生可能エネルギーの地産地消、EV自動車による空港直行便の導入で関係人口を創出し、地域経済を活性化。



経済

- 移動、宿泊、仕事のワーケーションパックとシェアオフィスを核とした都市部企業人の呼び込み
- 地元事業者・生産者とのビジネスマッチングによるビジネスの創出、地域経済の活性化

企業人の往来とビジネス創出による
地域経済の活性化

社会

- 高齢者向けタブレットと全世代向けAIチャットボットの導入による生活支援
- 住民向けMa a S導入による移動の利便性向上とだれもが生涯活躍のまちづくりの促進

次世代高度技術の社会実装による
住民生活の利便性向上

環境

- 畜産バイオマスを核としたクリーンエネルギーの地産地消
- ドローンによる商品配送とEV自動車による空港直行便の実証

カーボンニュートラルと
利便性・地域強靱化の両立

経済

企業人の往来とビジネス創出による地域経済の活性化



①-1 ワークेशनパックの開発

カーシェアリングやマイクロモビリティを活用したMaaSによる「移動」、ビジネスホテルや企業滞在型交流施設と連携した「宿泊」、テレワーク環境の整った「かみしほろシェアOFFICE」、これらがセットとなったサブスクモデルのワークेशनパックや、一気通貫の予約システムを構築し、ワークेशन滞在者の還流、ビジネスモデルの創出を図る。

①-2 都市部企業とのビジネスマッチング

2020年に整備したシェアオフィスや2021年に整備予定の企業滞在型交流施設を拠点に、都市部企業のワークेशनや副業・兼業希望者を呼び込み、町内事業者・生産者とのビジネスマッチングによる地域経済の活性化を図る。



かみしほろシェアOFFICE



仕事や困りごとのマッチング

子育て支援・支え合いの充実

社 会

次世代高度技術の社会実装による住民生活の利便性向上

②-1 域内DXの推進

高齢者向けタブレット端末により、福祉バスの予約、ビデオ通話による保健師とのコミュニケーション、一斉情報配信による生活支援とともに、全世代向けにAIチャットボットを整備し、24時間、行政と住民双方向のコミュニケーション効果の最大化を図る。

②-2 住民向けMaaSの実証

ICTを活用し、農村部におけるデマンド運行システムを構築するとともに、高齢者等福祉バスへの一般の方の混乗利用を開始するなど、2022年の事業化を見据えたMaaSの実証を行うことで、住民生活における移動の利便性向上を図る。



ICTを活用したMaaSの推進



自動運転バスにより、住民及びスーパーの商品を輸送



環境

カーボンニュートラルと利便性・地域強靱化の両立

③-1 再生可能エネルギーの地産地消

家畜ふん尿を資源としたバイオガス発電による地域電力を活用し、地域商社(株)karch(カーチ)が「かみしほろ電力」として電力小売による再生可能エネルギーの地産地消を推進する。

③-2 ドローン配送とEVによる空港直行便の実証

これまで、買い物アプリと連動した自動運転バスによる貨客混載の実証を進めてきたが、買い物支援を更に加速させるため、ドローンによる商品配送の実用化に向けた実証を行う。また、経済面の取組に記載の「ワーケーションパック」の中で、畜産バイオガス発電による電力を活用したEV自動車による空港直行便を運行させ、カーボンニュートラルの実現につなげる。





事業名

「かみしほろSDGs推進プラットフォーム」プロジェクト

- SDGsの達成に向け、地域が一体となって取組を進めるため、行政と事業者・団体等をつなぐプラットフォームを構築することで、意識の醸成と情報の共有化を図りながら、域内循環を創出する具体的な活動に繋げる。
- 児童や生徒、事業者等を対象とした研修を通じて、SDGs人材の育成を図るとともに、SDGsツアーの開発・実施により、域外からの呼び込みと地域におけるSDGsのPRを行いながら、民間の投資を呼び込むことで、統合的取組の実効性を高める。

I 「かみしほろSDGsプラットフォーム」の構築

- ・ 「かみしほろSDGs円卓会議（仮称）」の設置
- ・ 「かみしほろSDGs投資循環部会（仮称）」の設置

II 児童・生徒、事業者、シニア等を対象とした研修の実施によるSDGs人材の育成

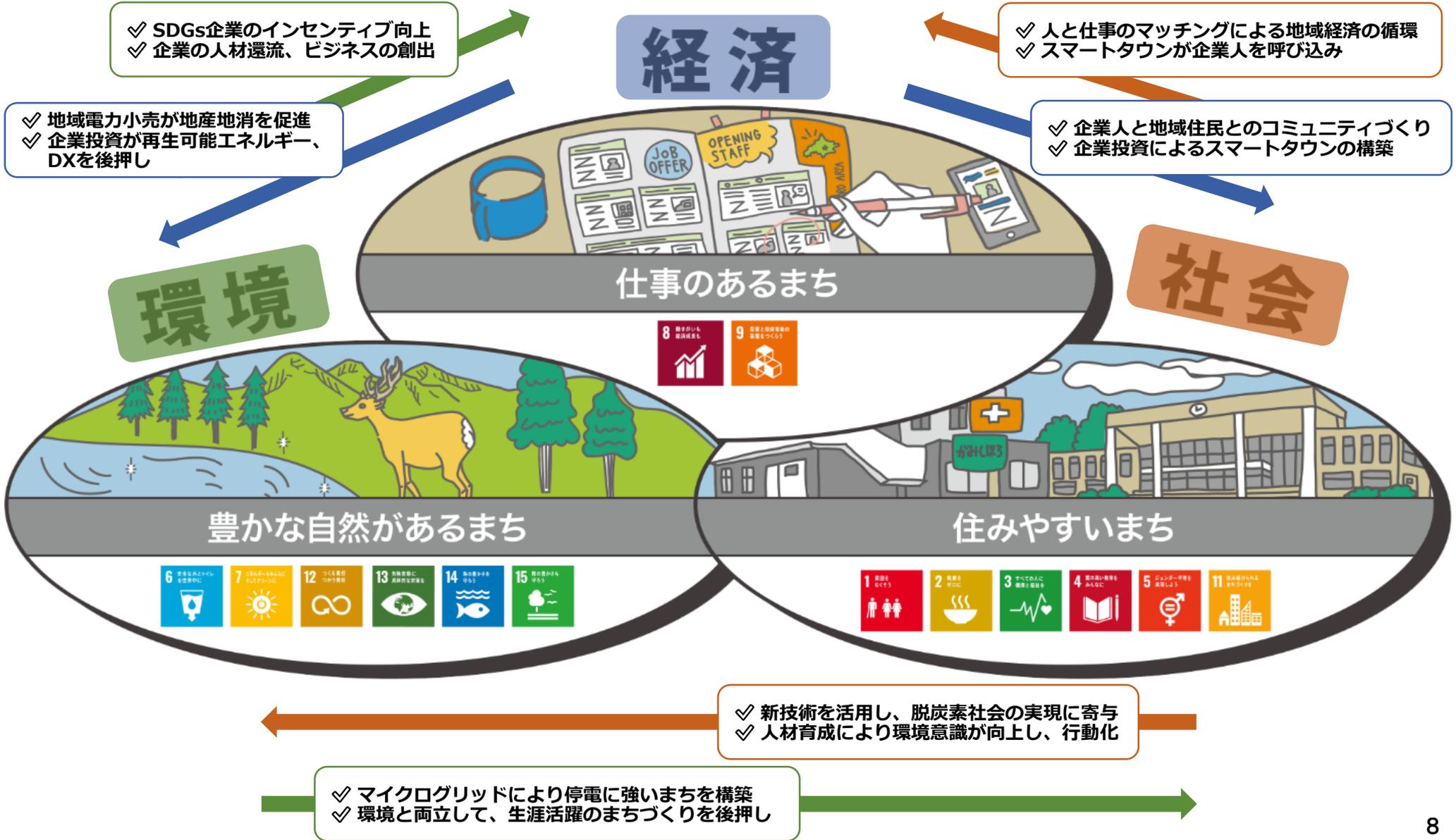
III 全国の自治体、児童・生徒、事業者等を対象としたSDGsツアーの開発・実施



地域が一体となって、SDGsを推進！



経済、社会、環境の各側面の相乗効果





自律的好循環の具体化に向けた事業の実施

SDGs推進プラットフォームのもと、ESG投資と域内循環を推進するとともに、SDGs人材の育成、SDGsツアーの開発・実施を通じ、全国に地域SDGsの取組をPRしながら、企業からの投資を呼び込むことで、スマートタウンの構築・推進を図る。

2017年度に町、産業、医療、金融機関等の出資で設立。
住民コミュニティの醸成や人材センター、健康づくりなど「だれもが生涯活躍のまちづくり」を推進。

行政・住民・産業・
医療・福祉・教育・
金融・報道機関 等

2018年度に町、旅行会社、ガス会社、金融機関等の出資で設立。道の駅の運営、バイオガス発電による地域電力小売事業など地域経済の活性化を推進。

(株)生涯活躍のまち
かみしほろ

(株)karch (カーチ)

ふるさと納税を活用した
地方創生の推進

かみしほろSDGsプラットフォーム

- ・かみしほろSDGs円卓会議 (仮称)
- ・かみしほろSDGs投資・循環部会 (仮称)



登録認証制度
SDGs取組PR



SDGs人材の育成
(普及啓発)

ESG投資

金融機関

連携

国内外の企業



SDGsツアーの実施

スマートタウンの構築・推進



家畜ふん尿から発電した電気を
売電することで稼ぐ

SDGsで上士幌町の未来を創る！

< 小規模自治体のロールモデルに >

上士幌町は、これまでも、そしてこれからも
「持続可能なまちづくり」を目指し、取り組んでいきます！

